

大東急記
念文庫本

大日經義釈卷第十三 併 解讀文

(四)

松本健二

本稿は、第十六・十七・二十三輯に続くもので、記載様式はそれらと同じである。

而觀實相圓鏡之心故得明了現前也誰能觀之

謂真言行人也此行人即以囉字之眼妙惠光明而

觀花臺之鏡初作意外觀宛然炳著於此圓明中

妙來乃至音聲色像皆悉无邊既是明了早

知此而為内身謂前來所觀毗盧遮那之身然

正受威光无际之觀為己身即今己身同於彼

尊於圓明之中并然而住同於彼佛也以離一切

相而現示相名真實相也所以然者此蓮後意而

〔而〕實相の円鏡の〔之〕心に觀ず。故に明了に現前

〔することを得〕也。誰が能く之を觀する。謂はく、

真言の行人なり也。此の行人は即ち囉字の〔之〕

眼の妙惠の光明を以て而花台の〔之〕鏡を觀す。

初めニハ作意して外觀するに宛然として炳著

なり。此の円明の中に於て、如來乃至音聲色

像、皆悉く無邊なり。既に是くの如く明了に

して、即ち此を引きて而内身と爲。謂ふ、前

來の觀する所の毗盧遮那の〔之〕身、寂然として

正に威光无际を受けて、今觀して己が身と爲

す也。即ち、己が身を以て彼の尊に於て同しか

ら令む。円明の〔之〕中に於て寂然として而住して、

彼の仏に同しからしむなり也。一切の相を離

れて而、相を現示するを以て、眞實の相と名

づく也。然る所以は著、此の蓮は意に従ひて

生謂先以羅字置眼而觀於心花臺之鏡即是外見

即以外見而成內見即自了其心也故經云惠眼如

是觀惠眼持誦者鏡觀見自形色寂然佛相身々生

緣意心生出常淨種々自業次光彼電燄彼謂

〔圖七〕

持真言者作一切諸佛事見若淨我亦說作一切

事意思以上經文也所云生者謂身語意生先

觀四明佛像金色等當知從意而生即引外向

內如身同佛身印諸同佛真言々音心同佛心同

〔一七五〕

佛生皆從意生也即以此生而能淨一切業故云

常淨種々自作業謂離一切業也若離一切業即

〔而生す。〕謂（ふ）先（に）羅字（を）以て（て）眼（に）置（き）て（て）而

心（の）花台（の）之（を）鏡（を）觀（ぜ）よ。即（ち）是（は）外見（なり）。

即（ち）外見（を）以て（て）而（て）內見（を）成（す）。即（ち）自（ら）其（の）

心（を）了（る）ナリ（也）。故（に）經（に）云（ふ）惠眼（如）

是觀惠眼持誦者鏡觀見自形色寂然佛相身々生

緣意心生出常淨種々自業次光彼電燄彼謂

持真言者作一切諸佛事見若淨我亦說作一切

事意思とイハ以上（は）經文（なり）也。云（ふ）所（の）生

と（は）者（を）身語意（の）生（を）謂（ふ）。

に（は）佛（を）身語意（の）生（を）謂（ふ）。當（に）知（る）〔圖七〕意（に）從

（て）生（す）。即（ち）外（を）引（き）て（て）內（に）向（ふ）。身（の）佛

の身印（に）同（し）き（を）如（し）。諸（も）佛（の）真言（々）音（に）

同（し）。心（も）佛（心（に）同（し）。同（佛（の）生（す）は）皆（意

從（り）生（する）なり（也）。即（ち）此（の）生（を）以て（て）而（て）能（く）

一切（の）業（を）淨（む）。故（に）常淨（と）云（ふ）。種々（自作

業（とは）一切（の）業（を）離（る）る（を）謂（ふ）也。若（し）

一切（の）業（を）離（る）る（も）即（ち）

爾名諸佛也若如是覺知即能以圓光遍照者即是

佛事也隨身口意遍照莊嚴常作一切佛事即同

毗盧遮那也誰能作此佛事耶所謂持真言者

也此皆佛益金剛手真言所生要也謂此真言

即後行者身口意而生若如是知即是內外清淨

〔佛〕

而作事也經云自業者即是佛事也謂普觀色身

或示要之行菩薩道八相成佛諸本生事等无量

785/784

无边以要言之皆是如來自業也若能如是知是

成佛也持真言者由住前觀次第方便此真言行

〔无五字〕

是身有緣起更无殊勝起更无殊勝異於佛也故

諸佛と名づく也。若し是くの如く覺知すれば

即ち能く円光を以て遍く照す。遍照トイハる

即ち是の仏事なり也。身口意の遍照莊嚴に隨

ひて常に一切の仏事を作すトイハ即ち毗盧遮

那に同し也。誰か能く此の仏事を作さむや耶

謂は所這持真言者なり也。此の皆、仏、金剛手

に真言の所生の処を答するなり也。謂ふ、此

の真言は即ち行者の身口意に従りて而生ず。

若し是くの如く知れば、即ち是の内外清淨に

して而事を作すなり也。經に自業と謂ふは著

即ち是の仏事なり也。謂はく、普く色身を現

じ、或いは処々に菩薩の道を行し、八相成仏

ヲ示す。諸の本生の事等は無量无边なり。要

て以て之を言へば、皆是の如來の自業なり也。

若し能く是くの如くスルは、是れか成仏を知

ルナリ也。真言とは著、前の觀の次第の方便

に住するに由りて、此の真言の行は是の身に

緣起すること有り。更に殊勝にして起ること

無し。更に殊勝ニシテ仏に於異なること無し

〔等七〕
經云見者成清淨（聞說）復然見聞觸知者皆悉

〔世〕。故（三經に）云（云）見者成清淨一聞說亦復然

〔合イ〕

得清淨此中能字是合多義也如意所思念一

〔圖七〕

能作一切事次光彼電炎彼謂持真言者作一切

〔十元〕

諸佛事若淨我亦說作一切事意思亦秘密主

797783

真言門菩薩行菩薩如是如是身中生緣起

〔徒〕

〔諸〕

自身影像生

无有佛殊勝是也以上經文也所說未分明可更

〔十元佛是也五字有過口筆〕

問之且可思其義像也緣起者謂觀心八葉花之上圓

明同於淨鏡之類初時未即明了以羅字惠

眼方便故漸自明了乃至於圓鏡中又見自身

即同一切佛等如是法生即是後目緣起若後

見聞觸知者皆悉

得清淨。此の中の能の字は是（ハ）多の義を合（イ）

〔也〕。如意所思念一

能作一切事次光彼電炎彼謂持真言者作一切

諸佛事若淨我亦說作一切事意思亦秘密主

真言門修菩薩行諸菩薩如是身中生緣起

無有仏殊勝是也トイハ、以上は（三）經文なり（世）。

師（の）説は分明なり未（ミ）更（ニ）之（を）問（ふ）可（し）。

基（の）義を思（ひ）て次（に）配（す）可（し）（世）。像也緣起とは（三）心（の）八葉（の）花（を）觀（する）を謂（ふ）。

花の上の円明は淨鏡（の）之（に）類（に）於（お）同（し）。

初時（は）即（ち）明（了）な（ら）未（ミ）羅字（の）惠（を）眼（の）方（便）を以（て）の故（に）漸（く）自（ら）明（了）な（り）。

乃至円鏡（の）中（に）於（こ）又（も）自（ら）身（を）見（る）。

即（ち）一（切）の仏等（に）同（し）。

是（の）如（き）法（の）生（ず）るは、即（ち）是（の）因（縁）に從（り）て起（る）。

若（し）緣（に）從（り）て

緣起者觀此不生門即入法界體性也（惠眼）

795/794

為曰淨境為所緣无量自業佛事役緣而生

〔廿三本〕

然實不自生不他生不共不无因如中論等中所

說也此法殊勝更无過上也。皆說離一切相无對无

緣而今作此觀等豈不相違耶如從阿字生一

切字（生一切）時即離本不生義此之如是佛以方便力

故无相寂滅法中而作此瑜伽之行无相

之中而說諸相即此諸相即是无相也所謂相者

804/797

即是後緣所生之法然實不自生不他生離於

〔非元七可尋〕

八不即是第一无相不離於相而說別有无相也若

起者（此）此の不生門を觀して即ち法界體性に

入る也。惠眼を以て因と爲、淨境を所緣と爲

て無量の自業の仏事、緣に因りて而生ず。然

るに、實には自らよりも生ぜず、他よりも生

ぜず、共に生ぜず、無因ならず。中論等の中に

説く所の如し也。此の法、殊勝なること更に

過上無きなり也。皆一切の相を離れて對無く

縁無しト説く。而して今此の觀等を作すに

豈相違せざるや耶。阿字從り一切の字を生

するが如し。一切の字を生ずる時、即ち本

不生の義を離れたり。此亦是くの如し。佛

は方便の力を以ての故に故に相無し。寂滅の

法の中に而此の瑜伽の之行を作す。無相の之

中に而諸相を説く。此の諸相に即して、即ち

是れ無相なり也。謂は所る相とは是、即ち是

れ縁に從りて生ずる所の之法なり。然るに實

には自らよりも生ぜず、他よりも生ぜず。八

不を離る。即ち是れ第一の無相なり。相を於

離して而別に無相有りト説力不也。若し

〔无十四是
等卅九字
无乙若制款〕

十今此等
十三字一下者
字下即字上
有之

文法何也故佛次引喻明之也又視察主真言門修

諸君其隆

80寸	80才
-----	-----

影謂淨身也此所起

莫過於佛也。如眼耳鼻舌身

意等取如是彼自性空唯有名字(所執同於虛空无

「草生十」

執着從因業生等於影像者即是相二者即是世

問法今佛說真言成佛之行而乃更明世間三昧

相

有之法何也故佛次打喻明之如眼耳鼻舌身

然(る)に有(る)力難(く)シテ云(はく)、今此(こゝ)本尊の

身語意等の種々の境界を觀するは、即ち是此

相なり。相とは審是(い)世間(の)法なり。今直言

成仏の定行を説く。而して乃ち更に世間の三

昧有相(の)之(を)法(を)明(す)は何(ヘイ)カ(ン)也(也)。故(に)佛

次(三)喻(を)引(き)こ(こ)之(を)明(す)也。又秘密主真言門

修

菩薩行從身所生影像とは(注) 身の影像起るを

謂ふ也。身とは垢身を謂ふ。影とは淨身を謂

此の起る所。仏に於過ぎたるは莫し世

如眼耳鼻舌身

意等取如是彼自性空唯有名字。所執同於虛空。

無

執着從因業生等於像とイハ著、即ち是此相な

相とは(覆)即ち是れ世間の法なり。今佛直

言の成仙(のま)行を説きたまふ也。而して乃ち更

に世間の三昧有相の之法を明す(は何ぞや)也。

故(に)仙次(に)喻(を)引(き)こ(え)之(を)明(した)まふ。如眼

等四大種攝取彼自性空唯有名字所執同於

〔无等於
以下十六字〕

塵空无執着從因重生等於影像者即是相

814805

〔此〕

〔十无之〕

者即是世業生等影經文意也因如鏡業如

身如對鏡而影現也如行者先觀外緣心之明

鏡然引入己身若自他平等无二即是瑜伽成

也自身為目所像緣是緣因緣合故有影像生

若了此因緣即成等正覺也誰成正覺謂真言

行人也此意者如世間五根等從四大因緣生業等

生雖有相有緣然自性空即同第一无相之法今

815817

〔若三本〕

此瑜伽以个雖為有相而從緣生實相即是

耳鼻舌身等四大種攝取彼自性空唯有名字所執
同於

塵空無執着從因業生等於影像者即是相

々者即是世業生等影トイハ經文の意なり也。

因は鏡の如く、業は身の如し。鏡に對して而
影現するが如し也。行者先は外緣の心の明

鏡を觀して、然も己身に引入するか如し。若
し自他平等にして二無ければ即ち是は瑜伽生

するなり也。自身を因と爲。所緣は是は緣な
り。因緣、合するが故に影像の生する有り。

若し此の因緣を了すれば、即ち等正覺を成す
也。誰が正覺と成ル。謂ふ、真言の行人なり

也。此の意ハ者、世間の五根等の如く、四大
因緣從り生し、業等より生す。相有りと雖も、

緣有りと然も自性空なり。即ち第一無相の之
法に同じ。今此の瑜伽も亦尔り。相有りと而

緣に從りて緣生すと爲すと雖も、生の實相は
即ち是れ

阿字法界之體何得難言是有相也若了如是

義即成心覺也故經云如眼耳鼻舌身意等四

大種攝取彼自持集聚脚取正覺彼互相緣

起【外未】不【外未】同【外未】斷也中相續若生彼即影像生是故諸

本神尊即我々即神本尊互相發起由互相生

故從身生身尊身【十元未字】生像天形謂生淨生身以上

經文也我之所起因於圓鏡見明鏡時自身影像

現由先未見圓明故能淨如未成心覺彼互相【十元如未】

緣起如鏡中生像々互相生因緣不斷中自垢

身生淨身彼互相生不間斷也同斷中相續即

阿字法界の空體なり。何かに難くして是れ有

相なりと言ふを得んや也。若し是くの如き義

を了すれば即ち正覺を成す也。故に經に云は

く。如眼耳鼻舌身意等四

大種攝取彼自持集聚脚取正覺彼互相緣

起不間斷也中相續若生彼即影像生是故諸

本神尊即我々即神本尊互相發起由互相生

故從身生身尊身々生像天形謂生淨生身【未とば】

ハ、以上は經文なり也。我々が起る所、円鏡

に因る。明鏡を見る時、自身の影像現す。

先由ヨリ円明を見未るが故に、能く、

淨如未成正覺彼互相緣起とは、鏡の中に像を

生じ、像の互ひに相ひ生ずるが如し。因緣断た

不ル中、【未とら】の垢身、淨身を生ずる。彼、互

ひに相ひ生じて間断せざるなり也。間断の中に

相續するは、即ち

是无間断也若從緣生彼即如影像生此明不離

因像也是故諸尊即是我即是本尊牙相

蒙

發起由手相。生故從身生身謂生淨心如是尊形像

824/824

〔所生身、或等〕

生身生於身謂垢身生淨身即佛本尊

之形當如是解也已身心已身心淨已又即同彼

〔十无有
以下十四字〕

手相緣起无有同断故云緣生即是影像生也

以内外相目更相影展轉相見故諸尊即

是我即諸尊佛即是我即佛也身

生形相生者謂從自身生也觀已祕密主法緣

〔十无觀已右更九
私依十意付之〕

824/通達惠通達緣法彼等互相作業住不性空

〔其十〕

是(ハ)間断無(シ)也。若從緣生彼即如影像とは、
此(ハ)因縁(ヲ)離(レ)不(ス)ることを明(ス)也。是(ハ)の故(ニ)
諸尊即是我々即本尊互相

發起とは、要に相ひ生ずるに由(ハ)る故(ニ)、身從
(リ)身を生(ズ)とは、淨心を集(メ)るを謂(フ)也。是(ハ)の如(ク)尊の形
像生ス。身(ヨリ)身を(於)生(ズ)とは垢身より淨身
を(生)ずるを謂(フ)。淨身は即ち是(ハ)ハ本尊(ハ)の之
形なり。當(ニ)是(ハ)の如(ク)解(ク)置(テ)也。身心を
已(ヤ)。身心を(己)淨(メ)已(リ)て、又即ち彼(ニ)同
(シ)互(ニ)相(ヒ)縁起す。間断有(ル)こと無(シ)。故
(ニ)云(フ)。緣生は即ち是(ハ)ハ影像の生ずるなりと
也。内外相を因(リ)て、更(ニ)相(ヒ)影發して展轉(シ)て
相ひ見(る)を以(テ)の故(ニ)、諸尊即ち是(ハ)ハ我、我即
ち是(ハ)ハ諸尊なり。仏即ち是(ハ)ハ我、我即ち是(ハ)ハ
仏なり也。身生形相生とは看(ミ)謂(フ)。自身從(リ)
生ずるなり也。已か祕密主(ハ)の法緣を觀(ミ)て、

通達惠通達緣法彼等互相作業住不性空

837 云何秘密主意。生身影像能生秘密主通達

是證果義至於所至要也此通達當言證也

秘密主觀此如前說鏡喻心中明鏡現像影時

无有分別但從像起今觀此法為從鏡生耶從面

生耶如是亦之皆无實實若從鏡有无面之應

常有若從面有无鏡之今常對然俱不可得故知但從像有面從(リ)有(らば)鏡無(くとも)亦常(に)對(せ)令(む)。然

而實常空此是法也因觀此法得成證惠然此惠

837 837

戲論永絕不可顯示談說若不说不度人復還本願

證更展 轉相十證 更 展轉相

更從智慧生法緣從佛因見法成。佛。己後

說法也。今可此從像生復成法也譬如白黃赤等作

云何秘密主意。生身影像能生秘密主通達とは

是(ハ)證果の義なり。所至の処(に)終(に至る)なり也。此の通達ヲハ當(に)證と言(ふ)當(に)也。

秘密主觀此とは、前に鏡の喻の心中の明鏡を説く(が)如(く)、像影を現(する)時(に)分別有(る)こと

無(し)。但(モ)緣從(り)起(る)。今此(の)法を觀(する)に鏡從(り)生(ず)と爲(む)や耶。面從(り)生(ず)むや耶。

是(て)の如(く)之(を)求(む)るに皆實如無(し)。若(し)鏡從(り)有(らば)面無(く)トモ亦常(に)有(る)應(し)。若(し)

(る)に俱(に)不可得なり。故(に)知(り)ぬ。但(モ)緣從(り)有(らば)面無(く)而實(に)常(に)空なり。此(の)法は是(ハ)法

なり也。此(の)法を觀(する)に因(り)て證惠を成(す)ることを得。然(る)に此(の)惠は戲論永絶(して)

顯(し)談說す可(から)ず。若(し)説(か)不(た)人(を)度(せ)不(は)復(モ)本願に違(は)む。更(に)智從(り)還(り)て

法緣を生(ず)。仏に從(り)て因(り)て法を見て仏に成(す)。成(仏)して己(り)て復(モ)法を説(く)なり也。亦

意作者作時染着意生彼同類如是身轉以上

經又也意言秘密主觀法：性空寂之相因緣

此相以惠而能通達也法是離諸相法：即是緣

由觀此入法性而通達法也若通達法即是達

84[目+]

緣々即是達法不相教起也同知法空寂即是達法

[是智三本]

也由有分別起知法是空已知緣：依法：依緣

[尤口依
十付之]

不相緣起是名諸法性空也若法如是性空云何從

[影+]

意生起願經又彼等不相不住性空秘密主云何

[四字+]

意能生影像秘密主譬如若白若黃若赤作
從生意作

[眼+]

意者此引喻也如人初見白時未明了次即生

此緣從(り)生して復(た)法を成(す)可(い)フヘシ

也。譬如白黃赤等作意作者作時染着意生彼同

類如是身轉とは、以上(は)經の文なり也。意の

言(ふ) 秘密主法を觀するに法性空寂の(と)相な

り也。此(の)相を緣するに因りて惠を以て而能

(く)通達(す)也。法は是(れ)諸相を離(れ)たる法なり。

法は即(ち)是(れ)緣なり。此(れ)を觀するに由りて法

性に入(り)て而法を通達(す)也。若し法を通達す

ば即(ち)是(れ)緣に達(す)。緣に達すれば即(ち)是(れ)法

を達(す)なり。互(ひ)に相(ひ)發起(す)也。法(の)空寂(な

るを)知(る)に因(り)て、即(ち)是(れ)法に達(す)也。分別

起(る)こと有(る)に由りて法は是(れ)空(なり)と知(る)。

已(に)緣を知(る)。緣は法に依(り)、法は緣に依(り)

て互(ひ)に相(ひ)緣起(す)。是(れ)を諸法の性空と名

づ(く)也。若し法、是(れ)の如(く)性空ナラハ、云、

何(に)意從(り)生起(せ)ム。願經の文に、彼等互相

不住性空秘密主云何意能生影像秘密主譬如若

白若黃若赤作意とは、此(れ)ハ喻(を)引(く)なり也。

人の初(め)て白を見ル時に明了(なら)未(る)が如(し)。

心分別此是縁耶此上大无問也金對非為不知為衆

像

疑

847 847

生故而疑問若如是ハ者彼意、從心生誰能

〔既説十〕

得知耶佛即設喻由如白何以故以異青黃等故

猶

〔縁十〕

心生此解即是從心生心世間當今當知從淨心

生淨心亦然也染着意生者如見白時心作白解由

此白故令心之白也如比丘觀白者見一切之白見

青者一切亦青也作時為於白上作白意成就也

識心從白心生不從外起如人觀白時即見一切白也

854 845

如月燈三昧說如女人好自莊嚴照鏡自見還自

生愛着若智者觀此後何生何要來一觀之不

次に即ち心を生して分別す。此は是れ縁なりや耶。此ハ上ノ無問なり也。金剛手の知る

不置か爲に非ず。衆生の爲の故に而疑問を發

す。若し是くの如くナラハ八者彼意々ハ心從

り生ず。誰か能く知るを得んや耶。仏即ち喻

を説く。白の如きに由りて何を以ての故に

青黃等に異なるを以ての故に心此の解を生ず

即ち是れ心從り心を生ず。世間當に亦り。當

に知る當し。淨心從り淨心を生ずるも亦然り

也。染着意生（二と染着意生）（染とは）者。白を見るときに心に

白の解を作すが如し。此の白に由るが故に心

を以て亦白ならん令む也。比丘の白を觀る者は

一切亦白と見、青を見るとき者一切亦青なるか如

し也。時を（今）作こと（是）トハ。白の上に於て白意の

成就を作るを爲す也。識心は白心從り生ず。

外從り起ラ不。人の白を觀ミル時。即ち一切

白と見るが如し也。月燈三昧に説くか如し。

女人の好みて自ら莊嚴シテ鏡に照して自ら見

て還りて自ら愛着を生ずるか如し。若し智者

「可得也由此意」從心生像還自生染若了知此但從

「言之義」

「百十」緣生即无染著以此證於自是自心而生於心也彼同

「十无遍有展轉」

類如是身遍謂即是童女自見其身也若染即

「解十」

是生死若但從緣生无有自性即是涅槃故云同類

身遍也從內觀意中下是偈秘密主又如內觀意

85才

「療治十」

中湯荼羅以療熱病彼衆生熱病即除謂一刹那

「十即除下故十十四字同又无是故付望文」

頂即是也是故當知意中湯荼羅作三角形等

次又引喻又如意中起立湯荼羅作三角等如

上說且如除熱方便作圓湯荼羅白色中有「下」

字或種子字而上安點等餘類此可解也此點

は此の如く觀するに何に從りてか生ずる。何

れの如くよりか來たると。一一之を觀するに得

可からず也。此の如く由りて意々心從り像を生じて

還りて自ら染著を生ず。若し此の如く但た緣從り生ずと

了知すれば即ち染著無し。此の如く以て自らを證す。

是の如く心より「而」心を生ず也。彼同類如是身遍

とは、即ち是の童女の自ら其の身を見るを謂ふ也。

若し染するは、即ち是の生死なり。若し但た緣從

り生ずるに自性有ること無くして、即ち是の涅槃な

り。故に同類身遍と云ふ也。内觀意中從り下

は是の偈なり。秘密主又如內觀意中湯荼羅以

療熱病彼衆生熱病即除とは、一刹那の頃を謂ふ

は即ち是の如なり也。是の故に、當に知る處に、意

中湯荼羅に三角形等を作す。次に又喻を引く。又、

意の中に湯荼羅を起立して三角形を作すが如

し。上に説くが如し。且く除熱の方便の如き

円湯荼羅を作す。白色の中に「下」字有り。或は

種子の字にして「而」字を安ずる等なり。余は此

の如く類して解く可し也。此の如く

即除熱惱為甘露味由作此法後心作之而能

〔從彼〕

除熱乃至剎那之頃彼病即除彼後心起也當

864857

知彼心不異於湯・荼・羅・不異於心也。相故也

〔24〕

言此湯荼羅與心无二。无別今此法也如是可解也

次又佛引喻如幻者化為男女等即此秘密主又如

〔秘密〕秘密主又如

諸幻者變化作男子而彼男子又復作化秘密主何

者為勝金剛手答言世尊此二人者无相異也何

〔是〕

以故世尊不實生故二男子本性空等同於幻

如是秘密主事謂悲地等事等謂多也意中

864864

〔所生事皆從意生此二性空无所分別謂无二无

即ち熱惱を除く。甘露の味と爲す。此の法を

作るに由て心從り之を作して而能く熱を除く。

乃至剎那の頃に彼の病即ち除く。彼心從

り起るなり也。當に知る處し。彼の心湯荼羅

に於て要ならず。湯荼羅は心に於て異ならず。相

するを以ての故なり也。言はく、此の湯荼羅

は心と无二無別なり。今此の法も亦是くの

如く解く可し也。次は又佛喻を引きたまふ。

幻者の如く化して男女等を爲す。即ち此の

諸幻者變化作男子而彼男子又復作化秘密主何

者為勝金剛手答言世尊此二人者无相異也何

以故世尊不實生故二男子本性空等同於幻

如是秘密主事とは悲地等の事を謂ふ。等とは

多を謂ふ也。意中所生事皆從意生此二性空無

所分別とは無二無別を謂ふ也。

別也後意及意所生彼二俱空无二无別也化人

如是一作

又復化作如是二約何者屈尊何優何劣何長

何短何好何醜耶經云誰勝者即是問是二約何

者尊勝也答言此二无異何以故以皆從不實

而作切而作幼者

生二俱本性空故夫約而作有何殊異耶

佛曰言世且觀此法如從心生圓鏡等心即是

871863

鏡即是心无二无別不別論其差別之相也若

離染十

染心者即是世間若染離心即是出世間心也若

此成百字位成品說未分明當更同之然其大意以

先修瑜伽故成乃至極大世間然不以此惠方便觀

意及(云)意所從り彼の二俱(に)空にして無二無別(なり)也。化人又復化作(す)。是(の)如(き)二の約

何者か尊に居する。何(れ)か優、何(れ)か劣、何

れか長、何(れ)か短、何(れ)か好、何(れ)か醜なる

也(耶)。經に云(ふ)誰か勝るとイハ(者)即(ち)是(れ)

是ノ二ノ約何者か尊勝(殊)ナルト也。答へて言

はく、此ノ二異なること無し。何(を)以(て)の故

(に)皆不實從(り)生して二俱(に)本性空なるを以(て)

の故に、約(に)して作(り)、約(に)して作(り)て何の

殊異か有らむや(耶)。仏因(り)て言(ふ)汝且(く)此

の法を觀せよ。心從(り)圓鏡等を生ずるか如(し)。

心(は)即(ち)是(れ)鏡、鏡(は)即(ち)是(れ)心なり。無二

無別(なり)。別(に)其(の)差別(の)之(を)論(ぜ)不(也)。

若(し)心(を)染(む)る者(は)即(ち)是(れ)世間なり。若(し)離

心(を)染(む)るは即(ち)是(れ)出世間の(之)心なり(也)。

若(し)此の成百字位成品、説(く)こと分明(なら)未。

當(に)更(に)之(れ)に問(ふ)當(し)。然(る)に其の大意は

先に瑜伽を(修)修するをスルカ以(て)の故(に)、乃至

極大世間を成(成)する(こと)？

然(る)に此(の)惠の

〔猶〕

空實相洗滌其心即於是世間之法故復作此觀

行令入湯荼羅實相成大空之壇元所不有而畢

竟清淨此其大略也次百字成就持誦品諦聽祕

875 877

密主真言救世者身不異謂身不異彼身所

〔意從意生トイフ
傳本无付
四字〕

謂實於心是同彼真言之身前是有生之

〔案〕

意後是淨意也能令意淨除也普皆有光

彼處流出從淨心中流出之彼即指前意也光与

瑜伽應而生由与瑜伽相應從彼心而生是光也愚

夫常所不能知謂愚夫所不能知於此道不能了

875

達也乃至身所生分不異於身後身所生身

方便を以て空の實相を觀して其の心を洗滌せ
不。即ち是の世間の法に於てするが故に
須く此の觀行を作し、湯荼羅の實相に入り、
大空の壇を成し、有らざる所無くシテ而畢
〔案〕
竟清淨ならん令む復し。此の其の大略なり也。
次百字成就持誦品諦聽祕

密主真言救世者身々不異とは、身の彼の身に
異ならざるを謂ふ。謂は所する心に於て是なり。
而して彼の真言の身に同し。前と
は是れ有生の意、後ハ是れ淨意なり也。能
く意をして淨除せしむ也。普皆有光彼處流出
とは、淨心の中從り之を流出するなり。彼
とは即ち前の意を指す也。光与瑜伽應而生と
は、瑜伽と寫相應するに由りて彼の心從りし
て而して光を生ず也。愚夫常作不能知とは、
謂ふ、愚夫の知ること能はざる所なり。此の
道に於て了達すること能はざる也。乃至身生ず
る所の分に、今の身に於て異ならん不。身從り生
ずる所の身なり也。

88才 也有无量多種也身既无量如是真言：說有无

量如^如意寶謂吉祥如意珠也随所欲制而得成

^{樂敘作}饒益

就如是世間照世者身一切利成秘密主云何无分別

法界一切所作随轉秘密主又如虚空界云々佛告秘密

主諦聽真言救世身々不異意生意善令淨除

彼處流出普皆有光明應支分處遇夫所知^愚

〔无七〕

此道乃至身所生分有无に量多種經文也楯持真

88才

言故此言有異從意生意能善淨除彼所流出即

以此身不異彼身後自身生即是從意生由淨除

諸垢故一切事成也由有是德随諸支分流出无

無量の多種有^レ也。身既^レ無量なり。是^レの

如^レき真言の言說にも無量有^レ。如之意宝とは、
謂^レふ、吉祥如意珠なり也。所欲の利に随^レて

成就することを得。

如是世間照世者身一切利成秘密主云何無分別

法界一切所作随轉秘密主又如虚空界云々仏告

秘密

主諦聽真言救世身々不異意生意善令淨除

彼處流出普皆有光明應支分處遇夫所知

此道乃至身所生分有无に量多種とは經の文な
り也。猶ほ真言を持^すか故に、此の言異なる

こと有^るがごとし。意從^レり意を生^ず。能善淨

除彼所流出とは、即ち此の身、彼の身に異な

らざるを以^てなり。自身從^レり生^ずるは、即ち

是^レの意從^レり生^ずるなり。諸の垢を淨除するに

由^るが故に、一切の事成^る也。是^レの徳有^るに由

明而作佛事如斯等事凡愚所不能知由不知此

道故得愚夫之名此道者即真言行也以成真

言得悲地故從於此身更有身生謂欲色界等

其類衆多皆從一真言而出无量身口意如上所

894887

說從佛上中下分生无量門身此行人之如是能隨

身分上中下或現四佛四菩薩乃至諸八部等猶如

大悲藏中所說其數无量也又疑難之上說真言

无相无缘同於大虛不可分別云何而有此種之事

〔答元〕

耶今喻如：意珠滿一切願乃至三事之能淨也若

りて諸の支分に隨ひて光明を流出して仏事を
作す。斯くの如き等の事、凡そ愚の知ること
能はず所なり。此の道を知らざるに由るが
故に、愚夫の名を得、此の道とは置即ち真言
の行なり也。真言を成し、悲地を得るを以て
の故に、此の身に於て更に身有るに従りて生ず
色界等を欲するを謂ふ。其の類衆多なり。皆
一の真言に従りて而無量の身口意を出す。上
に説く所の如し。仏の上中下の分に従りて無
量門の身を生ず。此の行人も亦是くの如し。
能く身の分の上中下に隨ひて、或るときには
四佛四菩薩乃至諸の八部等を現す。猶ほ大悲
藏の中に説く所の如し。其の數無量なり也。
又疑難して云はく、上に説く真言は相無く、
縁無し。大虛に於て同し。分別す可からず。云
何にして而此の種々の事有らんや耶。今喻へ
ハ如意珠の一切の願を満たすか如し。乃至三
の事も亦能く淨し也。若し。

〔未完〕